



# 大いちょう

平成29年 5月 1日

さいたま市立高砂小学校

高砂小学校だより 平成29年度 No. 2 048 (829) 2737

## そ う じ

校 長 石 山 大 介

両膝を床に付けて、二つ折りにした雑巾の上に掌をしっかりと乗せ、その手を腕の長さの分、真っ直ぐ横に移動させる。次は、雑巾の幅だけ手前にずらしてまた横に移動させる。この動作を機械のように黙々と繰り返す。拭き掃除の一つのやり方だ。

さて、学校は勉強をするところ。低学年のうち、楽しい活動の中に学びが仕込まれていて、勉強しようとする意思がそれほど無くても、活動しているとそれ自体が自然に学びにつながっていく。

学年が進むにつれて、遊びの要素がだんだん少なくなっていく、高学年ともなれば、覚えよう、理解しよう、探究しようというような意思や意欲が必要になってくる。予習や復習もやらなければならない。このような、学びに向かう姿勢も、今は、「学力」の一部として捉えられていて、点数等に表された結果だけを「学力」とするのではなくて久しい。

「あの子、勉強できるね」「そうだよ。掃除、真面目によくやってるもんね」

子ども同士でもよくある会話。これはもっともな話だ。

掃除をするにはそれほど大した意思は必要ない。綺麗にしようという気持ちをもって道具を手にして、拭いたり掃いたりすればよい。学校でする掃除は、始める時間も終わる時間も決められている。掃除をする場所も分担も。そして全校が一斉に掃除をする。他の人が遊んでいる時間に、自分一人だけやるのではない。ある意味、こんな楽なことはない。

このように、強い意思を必要としない掃除、簡単にできる掃除に一生懸命取り組まずに、勉強という、より意思を必要とすることに取り組めるはずはない。

だから、掃除を一生懸命する子は、勉強ができる。今できなくても、いつか必ずできるようになる。そして「学力」だけでなく、一生ものの「徳力」が身に付く。

両膝を床に付けて、二つ折りにした雑巾の上に掌をしっかりと乗せ、その手を腕の長さの分、真っ直ぐ横に移動させる。次は、雑巾の幅だけ手前にずらしてまた横に移動させて床を拭く。こんな姿はもはや家庭では見られなくなっているかもしれない。今は、機会がサンバやルンバを踊りながら家人のいない間に掃除をしている家庭もあるのだろう。少し寂しいような気もする。

高砂小の掃除の時間には、膝をついて廊下を丁寧に拭く子どもたちの姿がたくさん見られる。担任の先生に教わったのだろうか。それともお家で教わったのだろうか。嬉しくなって書いた。そんな姿が高砂の伝統として残っていったらいい。

青空に輝く大いちょうの若葉が眩しい。とてもさわやかで、一所懸命に掃除に取り組む高砂の子どもたちの姿に重なる。

大型連休が始まります。子どもたちには、事件や事故に巻き込まれないよう、くれぐれも安全に生活してほしいと願っています。